

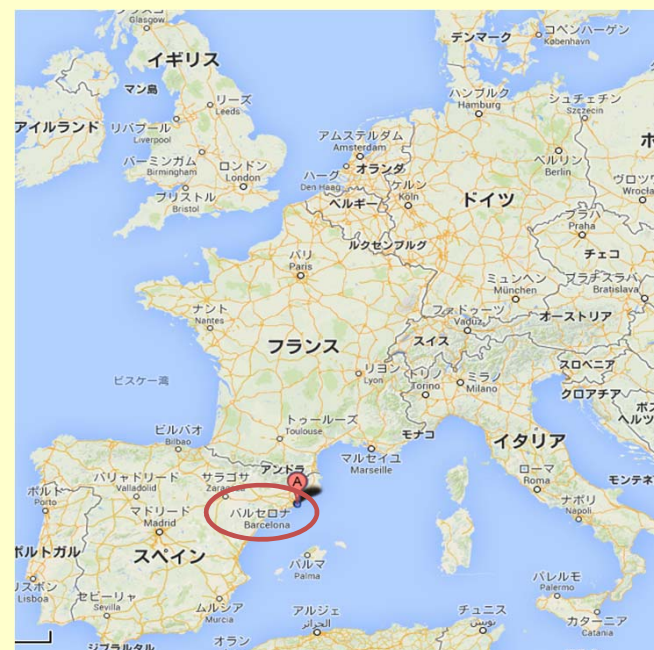
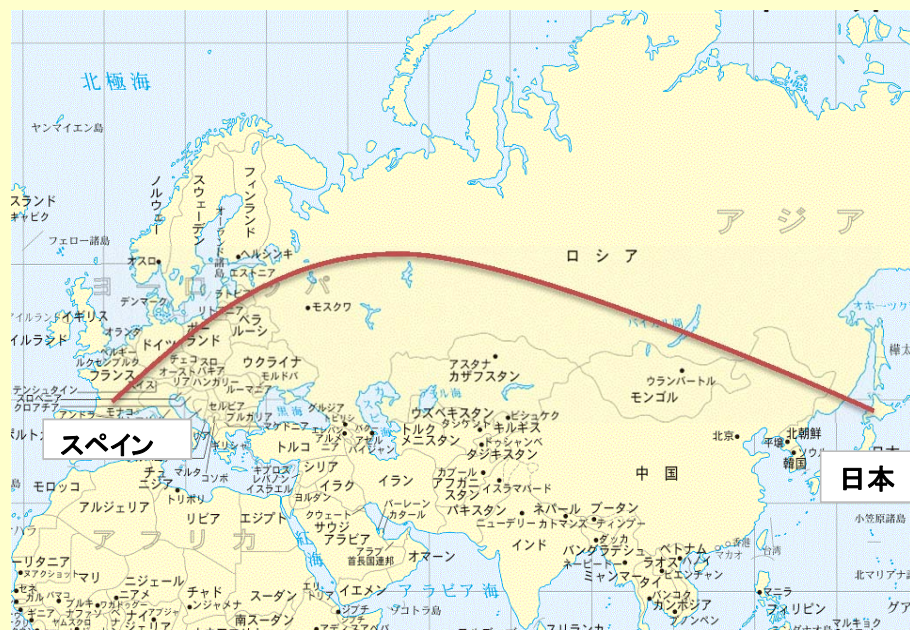


スペイン・バルセロナ萬遊記 Part2



55th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes

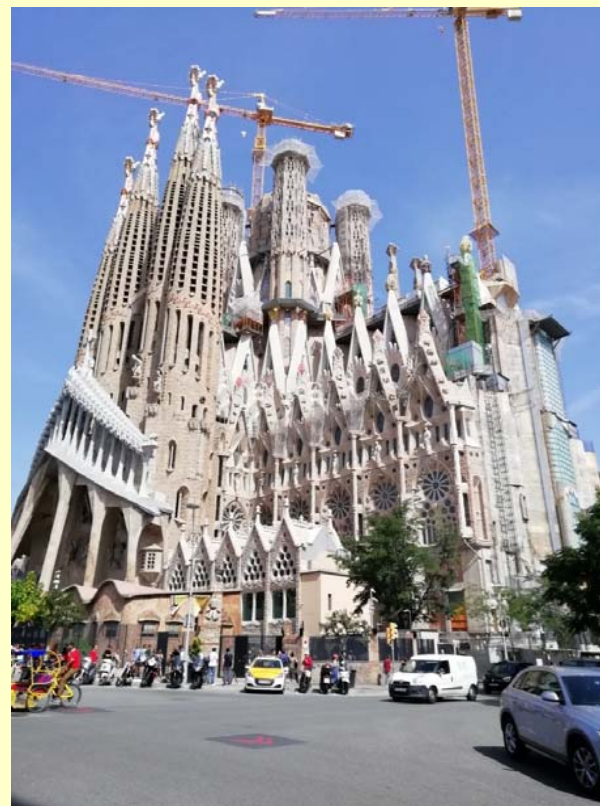
Barcelona, Spain
16 - 20 September 2019



今年は、2013年第49回欧州糖尿病学会（EASD）バルセロナ大会以来6年ぶりに、第55回EASD参加のため9月13日から20日まで再びバルセロナへ行ってきました。バルセロナの人口は150万人から160万人に増えておりましたが、それ以上に6年前とは比べものにならないくらい街中は人が多く、特に観光客で溢れていました。

バルセロナはスペイン第2の都市で、カタルーニャ自治州の州都でもあります。6年前に来たときは建物のベランダからカタルーニャの旗がそこかしこに掲げられておりましたが、2年前カタルーニャ独立運動事件後、カタルーニャの旗は少なくなり現在はその勢いは収まっているようでした。





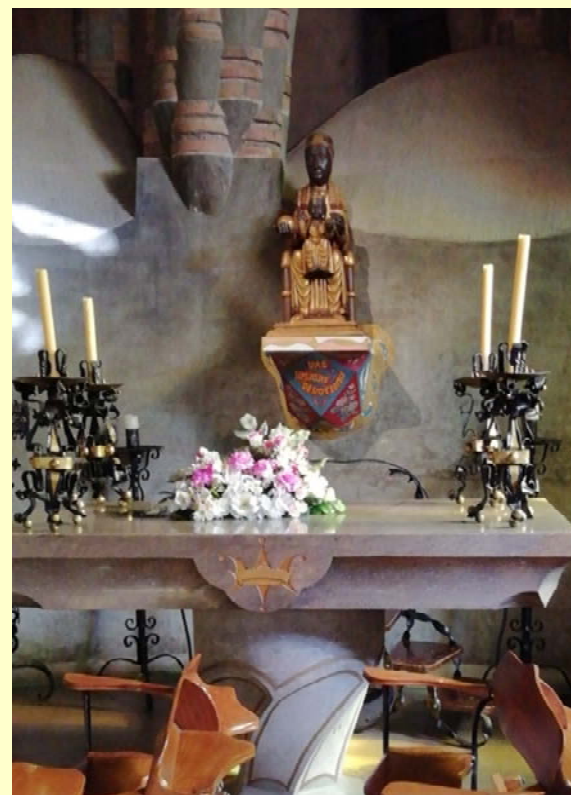
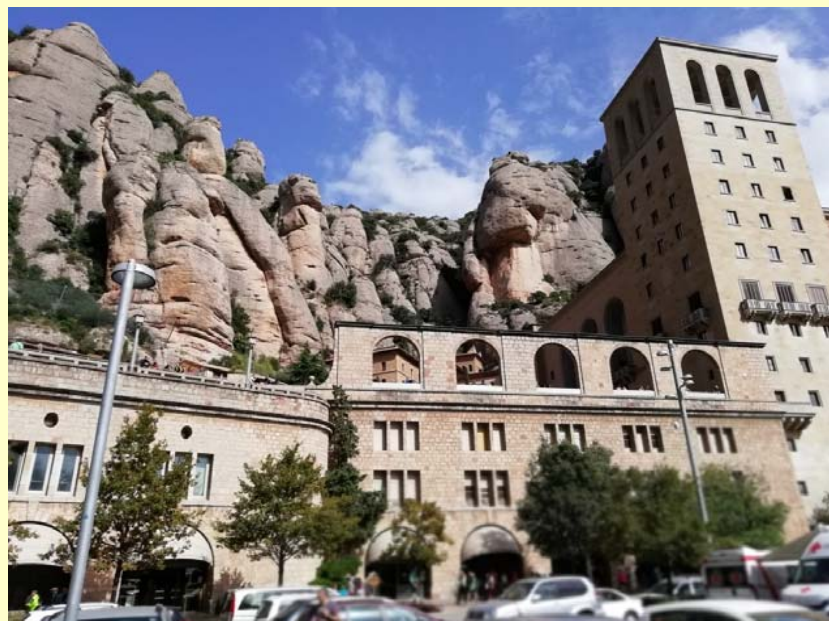
今回、歴史的に有名なコロンブスがアメリカ大陸を目指し出港した港に行って見ました。コロンブスが遠いアメリカ大陸を指さしている方向を、私も見てみましたがクルーザーが一杯で海さえも見えませんでした。

バルセロナといえば何と言っても一番有名な聖家族教会（サグラダ・ファミリア聖堂）へ今回も行ってきました。6年前も教会は建築工事中でしたが今現在も工事は続いていました。6年前に見たときは130年掛けて4本しか建ってなかった鐘楼が、今回は6年間で4本新しく鐘楼ができておりました。また更にその中心部には巨大な（標高100m予定）鐘楼が建築工事中でもう既に半分程度できていました。予定では18本の鐘楼が造られるそうで、急に工事が進んでいるようでした。この教会の工事は1883年からガウディが設計工事をし、1926年にガウディが電車に轢かれて亡くなった没後100年の2026年に完成予定との事です。前回来たときには2026年完成は到底無理ではないかと思いましたが、今のペースで行けば可能と思いました。



次に有名なグエル公園に行ってみました。その当時のグエル財閥がガウディに依頼してバルセロナ市街を見下ろす山の手に宅地を造成し、住宅を造り芸術的な田園都市を造りました。しかし住宅は資金難で2戸しか造られず、そのうちひとつはガウディ自身が父親と姪とで住んでいたそうです。6年前と違って観光客が余りにも多いため、今回サクラダ・ファミリヤ聖堂同様にグエル公園も入場制限が行われており、前もって入場券を予約しておかなければ長時間待たされ売り切れになることがあるそうです。特にサグラダ・ファミリヤ聖堂は以前と違ってセキュリティが厳しくなっていました。2年前に起きたランブラス通りのテロ事件や多くの移民問題があるようです。

今回、初めてカタルーニヤの聖地モンセラット（ノコギリ山）へ行ってきました。標高1235mの山の中腹には11世紀に創建された修道院があり、奇岩が剥き出しになったノコギリ山でした。行きはロープウエーで登り帰りはケーブルカーで降りてきました。そこには黒いマリヤ像が祀られており巡礼の地だそうです。ここも多くの観光客が押し寄せておりました。



最後に第55回EASDの報告をしますが、今回は以前のEASDより雰囲気が静かで、これと言う目玉の研究発表がありませんでした。そんな中で特集「The PIONEER journey」が一番印象的でした。経口糖尿病薬semaglutideの有用性や安全性、心血管系に対する効果について発表がありました。この薬は2年前に当院でも治験をやった薬でした。今後、来年には発売される予定だそうです。非常に良い成績結果が出ておりました。皆様も新しい糖尿病治療薬が発売されますのでご期待下さい。

今回の5日間のバルセロナ学会旅行は毎日快晴で、日中は30℃前後で夜20℃前後、日陰が涼しく爽やかな風が吹き、シーフードとスペインワインが美味しくすばらしい旅行でした。6年前のバルセロナ萬遊記でも書きましたが、テロの危険や景気悪化のヨーロッパの中で一番のお薦め都市です。



END